



いちよう

発行所
待乳山 本龍院
〒111 東京都台東区浅草7-4-1
-0032 TEL. 03(3874)2030
FAX. 03(3874)5280

感応

住職 平田真純

平安時代初期に著されたとされる、現存する日本最古の説話集「日本靈異記」の中に、次のような説話があります。

耳の聞こえなくなった人が華嚴経をたのみ信じて、この世で報いをうけ、両方の耳が聞こえるようになった話 第八

小墾田の宮で天下を治められた推古天皇の御代に、衣縫伴 造義通という者がいた。突然重い病にかか

って両方の耳が聞こえなくなり、それに悪質の腫れ物が全身にできて、長年治らなかつた。そこで思ったことには、「この病気は前の世の報いによるのだろう。単に自分がこの世で行ったことの報いだけではないだろう。だから、長生きして世間の人々に嫌われるよりは、むしろ善い行いを積んで、後の世の菩提を祈って、早く死んだ方がよいだろう」と悟つた。

義通は土地を掃き清め、仏堂を飾り、義禪師を招き

迎えた。まず身を清め、香水で体を洗い、大通方広経を読んで一心に祈つた。すると、不思議な靈感があり、義禪師に、「たつた今しがた、わたしの片方の耳に一人の菩薩さまの御名が聞こえてきます。ですからお坊さま、ご苦労さまですが、しばらくしんぼうして、そのまま菩薩さまを拝んでいてください」と頼んだ。

そこで禪師が改めて礼拝し、お経を読むと、もう片方の耳も聞こえるようになった。このことを聞いた遠近の者たちは、みな驚き、不思議に思わない人はいなかつた。これで、仏を信じると必ず感応があるということとは、嘘でないのがわかるだろう。

(現代語訳 中田祝夫 講談社学術文庫)

これを読むと、当時でも今と同じように、仏さんをおがんでご利益なんてあるんだろうかという疑問の声や、体験談などを交えて、いや必ずあるんだという声があつたことがうかがわれます。いつの世でも、神仏を信じるか否かの論争？はあるのです。

推古天皇の御代といえ、待乳山の開山と同時期の話ですから、巷間、聖天様の御利益にまつわる話もさ

ぞ多く語られていたことでしょう。

この説話のように、また数ある聖天様の靈験談のように、目に見えるご利益を実感できれば、それはとても素晴らしいことです。しかし残念ながら、ご利益など全く感じられないという方や、あるいはご利益があったような気もするが、何か判然とはしないという方もいらつしやいます。祈願をこめれば必ず功德はあるのですが、欲が先立っていたり、個人的な思い込みが強すぎたりして気づかないという場合も多いのではないのでしょうか。

聖天様に祈願をすると、すぐに効験が現れるという話もよく伺いますし、また逆にたちまち反対方向へ進み、神も仏もあるものかと嘆かれることも時にはあるようです。ご利益というものは、ご自身の因縁と神仏のお力が調和したものであると思いますので、もしも逆方向に向かつてしまうと感じるのだとしたら、それはその先の心構えや信心を試されているのではないかと思えます。心身を浄めて

祈願すれば、すべてが洗いだされます。今までの良いところも悪いところも明るみにも出るとも言えるかもしれません。ご利益をいただくには、すべてを受け入れる心の余裕も必要でありましょう。心が欲や怒りに支配されていると、余裕はなくなります。前出の説話の主人公も、決して欲や怒りによる願いであつたわけではありません。

『大聖歡喜天使呪法経』に、「我れ順世の法を行じて 世に希有の事を示す」という一節があります。

「順」という言葉には、「秩序ある道すじ」とか「正道に従うこと」などの意味があります。すなわちこの一節は、因縁による道理を学んで：つまり仏法を行じて、不思議な靈験を示すということになります。希有の事＝不思議な靈験は、決して道理を外れた理不尽なご利益ではないということです。

コロナ禍により私たちは今、試練に立たされておりますが、聖天さまのお力を疑わず一

心に祈れば、私たちの考えや行動が洗いだされ、よいお導きを授かるでしょう。神仏なしで現実に向き合うだけよりもずっと深みのある気づきを得ることでしょう。

私たちは、この大きな国難に際して、目先の利を追って将来を見誤ってはいけませんので、神仏のお智慧を存分にいただけるよう祈願したいものです。

法要のライブ配信について

感染防止対策のため各行事の参加の自粛をお願いしておりますが、一部行事はインターネットでライブ配信を行っております。

以前と同じようにお参りが出来るようになるまでの措置でありまして、直接のお参りに勝るものではありませんが、ぜひご視聴ください。

視聴方法につきましてはホームページにておしらせしておりますのでご確認ください。

本堂の天井画

当山は推古天皇の三年、地中から忽然と湧き出た霊山でその時、金龍が天より降って山を廻り守護したという伝説があります。

そのことから、本堂再建の度に天井には龍が描かれております。

現在の本堂外陣の天井の龍の図は、昭和四十一年に堅山南風画伯によって描かれました、戦災で失われる前の本堂の天井にも龍と天女が描かれており、その写真が残っています。



戦災で消失した小室翠雲画伯の龍の図



本堂の天井に取り付けられた「龍の図」(台東区浅草の本龍院で)

本龍院に「龍の図」

堅山画伯 三年がかりの大作

浅草の聖天さまとして下町の人たちに親しまれている台東区浅草七丁目持乳山(まつちやま)

本龍院はいまからおよそ十三百年前の推古天皇の時代に開山したと伝えられ、大聖修善天をまつる聖観音宗の名山、隅田川に臨む小高い丘の上にあるところから、景勝の地としても有名で、江戸時代から家内安全、商業繁盛を願う参拜人でにぎわって来た。本堂の天井には江戸時代、狩野派の画師、狩野祐清がいた「龍の図」などが奉納されていたが、戦災で本堂とともに消失した。現在の本堂はさる三十六年に再建されたものだが、ゆかりの龍の図がないところ

から同院では三十九年、堅山画伯に龍、天女など五枚の絵の制作を依頼した。

三年がかりで完成した「龍の図」は水墨画でタテ四尺、ヨコ二尺の大作。極彩色の「天人の図」「日月の図」各二枚もほぼ同じ大きさで十八日、本堂外陣の天井と内陣の両側の壁に取り付けられた。

本龍院では二十日午前十一時から、本堂で絵の献納法典を行なう。

※記事では狩野祐清画伯の描いた龍の図は戦災で焼失したとありますが、実際には大正十二年の大震災で消失しており、震災後に描かれた小室翠雲画伯の龍の図が戦災で消失いたしました。

当時（昭和四十一年）の産経新聞の記事をご紹介します。古い紙面の為読みづらいかもしれませんが、ご了承ください。

七月行事予定

七月の行事につきましては、新型コロナウイルス対策のため原則中止または縮小の予定ですが、状況により変更する可能性があります。追ってホームページ上で告知をいたします。

出世観音供養会

七月十七日（金）午前十一時

講金 一、五〇〇円也

参道の出世観音様をご供養いたし、特に学業・芸事・開運・出世をご祈願します。

常香講大法要

七月二十日（月）午前十一時

講金 一、五〇〇円也

ご祈祷に用いるお香を供養いたします。

※右記法要は僧侶のみで執行し、ご信徒様におかれましては、ご自宅でのお勤めをお願いいたします。

朝まいり会

七月一日～七日 午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

本堂では僧侶のみでお勤めいたします。朝まいり会員向けにインターネット配信を行います。

また、七日の齋食は中止といたします。

日曜勤行

中止となります。

写経の会

中止となります。

収束後、より一層充実した
行事を企画してまいります所存です。

坐禅の会

中止となります。

合同大般若法要

七月二十五日（土）

午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

法要は執行いたしますが、信徒様におかれましてはご自宅でのお勤めをお願いいたします。

八月の行事

灯明講

八月二十日（木）午前十一時

講金 一、五〇〇円也

行事報告

国難消除祈願法要 報告

例年であれば、香湯加持会としてお加持を授けておりましたが、今回はお加持を延期といたし、一日も早い収束を願い「国難消除祈願法要」を当山僧侶のみで執り行ないました。



皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。